

中華人民共和国 「成都市」訪問記

元 関東農政局水戸地域センター
主任農政調査官 飯田 茂

◆経歴◆

1972年 関東農政局茨城統計調査事務所谷田部出張所採用
1986年 関東農政局統計情報部水産統計課
2005年 関東農政局統計情報部経営・構造統計課統計管理官
2011年 関東農政局水戸地域センター主任農政調査官
2012年 定年退職。2017年まで再任用

1. 中国・成都市へ

今回の中国・成都市訪問は、2019年3月に四川大学のA教授(つくば市出身)がインターネット上で『つくば日中協会』を知り、「ぜひ交流したい」という希望から実現しました。訪問までには、四川省郫都区にある日本語同好会と2回(4月、7月)のTV会議を行い、交流の端緒を作っていました。

『つくば日中交流団』は、つくば日中協会会員総勢10名。9月15日の早朝、中国に向けて成田空港を離陸し、成都空港に13:40(現地時間12:40)着陸。入国手続きを済ませ、送迎バスでホテルへ。休憩後は、近くにある『杜甫草堂』で食事をしました。中国を代表する詩人・杜甫は760年頃、この地で4年間過ごしたそうです。

杜甫草堂は、建舎や杜甫の像が設置され、総じて緑豊かで、静かでした。見事な庭園には回廊が続き、竹や桂花の灌木、下には龍のひげ。この空間にいと浮世の喧騒さがかき消され、心中おだやかになり、一種の清涼感さえ感じさせるほどで、旅の疲れは癒されました。

2. 蒲斌区政府要員との交流

第2日目。6時起床。朝7時になっても夜は完全に明け切っていませんでした。屋外の体感温度は約17℃、やや肌寒。7:40、郫都区政府がチャーターしたバスに乗り込み出発です。

8:30、法治文化園に到着後、公園の中を散策。“ビルの中の緑の公園”といった感じで、市民の憩いの場になっているようでした。奥の広場では、15、6人の若者たちを中心に、中国で流行中の音楽に合わせて踊る『広場舞』を楽しむ姿がみられ

ました。その後、文化園の中にある公共空間『创智e站』で日本語同好会8人と合流しました。

10:00、イノベーション展覧センター『创新展览中心』に到着。中国の『双创』(大衆創業-大衆による起業と万衆創新-万人によるイノベーション)の技術を総集した展示内容でした。

低成長に入った中国経済の今後は、この『双创』が鍵になると中国中央政府は考えており、独自の産業システムを形成しようとしています。会場には日本の住友化学(株)が技術援助しているとの表記もあり、「このまま行けば、中国は日本の技術に追いつき、そして、追い越していくのだろう」という予感が頭をかすめました。

11:30、郫都区人民政府の建物に入り、広い会議室に通されました。いよいよ対面の時です。司会は蒲勇氏(区委員会副主任)、中国側は蒲斌区政府要員、投資局、商務局、国際交流部の責任者とその職員。こちら側は交流団10人。さらに地元テレビ局や地元紙の記者やサービス員(アシスタント)など、50人以上が参席しました。

蒲斌区政府要員など中国側の発言の際には通訳が付きました。それによると、「近年、郫都区は経済発展が著しい。最近では電子科学産業への投資額が増えている。今後、科学技術と文化の向上に力を入れていきたい。また、資源も豊富なので、これを活かす努力もしていきたい。さらに、映画産業のもとになるものも作っている」とのことでした。

続いて、T会長より『つくば日中協会』を紹介し、その後、交流への感謝の意味を込めて、蒲斌氏が発言されました。

「科学技術と生きていくまちとして、お互いに共通するものがある。邛都区では、携帯電話の材料やパソコンの中心部分の製造など、電子産業の基礎は形成されてきた。今回、『科学都市』と言われている日本のつくばと交流することで、当区での創業、また企業の発展に寄与するような、電子科学分野における優秀な人材の交流を図ることができれば大変ありがたい」。

「文化面では、A教授のおかげで日本語を学べるコースが創設され、邛都区の良さも伝えて頂いている。料理分野では、四川料理と日本料理がうまくコラボレーションできるようになれば良いと思う」。

「日本のアニメ技術は世界一だと思う。西遊記をアレンジした日本アニメの興行収入は莫大と聞いている。今後、アニメ分野でもさらなる交流ができることを期待している」。

「そのほか、村の改革を目指し、都会で開発した現代農業技術を広めていきたい。日本の農業技術から学ぶところも多いため、今後、交流できるのではないかと。今回の『つくば日中協会』との出会いを大切に、今後も交流を深めていきたい。今日はとても良いチャンスを作っていただくことができた。感謝したい」。

このあと、五十嵐立青つくば日中協会名誉会長からの親書(日本語と中国語の2通)を邛都区蒲斌区政府要員に手渡しました。

この会談終了後、戦旗村に行き、国家無形文化遺産認定の『邛崃豆板醤博物館』を参観。夜は、『大



■五十嵐立青名誉会長からの親書を手渡しする様子

蜀火鍋』に行き、四川省名物の「火鍋」を堪能しました。

3. 成都観光

第3日目。成都電子科学大学内の『電子科技博物館』を見学。計量器や測量機、コンピュータなどの技術進歩の歴史を知ることができました。日本から輸入した1980年代のシャープ製のラジカセ、東芝製のテレビもありました。

その後、世界遺産『都江堰』へ。この堰が築造されたのは紀元前3世紀。2300年を過ぎた現在でも5,300km²の農地に灌漑されているそうです。15:40、『青城山』に到着。この地には道教関係の重要な建築物が集中しています。背後には岷山雪嶺、主峰は1,600mで、周囲は鬱蒼な森で、独特の景観をなしていました。

第4日目。8:30、『成都大熊猫繁育研究基地』(パンダ基地)に到着。9:10、中国に来てやっと最初のパンダとご対面。50~100坪程度のスペースに、1~2頭のパンダが飼育され、柵には写真入りの説明板(名前や性格)が掲げられていました。出口近くにある自然の環境に近い大きなスペースでは、パンダが木に登ったり、走り回ったりしている様子が見受けられました。

13:50、『三星堆博物館』に到着。三星堆文明は、約4,000年前から約3,000年前に栄えた古蜀文化で、世界の四大文明に匹敵するそうです。

第5日目。9:30、『金沙遺跡博物館』に到着。金沙遺跡は殷周時代の遺跡で、面積は5km²を越えます。三星堆文化後のBC1200~500年の十二橋文化の代表遺跡でした。

14:20、『武侯祠』に到着。ここは諸葛孔明と劉備玄德の祠堂です。蜀の初代皇帝が劉備玄德で、劉備が蜀の都と定めたのが成都。劉備に三顧の礼で迎えられ、軍師として活躍したのが諸葛亮(諸葛孔明)でした。

このあと、タクシーで『宽窄巷子』に赴きました。ここは、約300年前の清朝時代に築かれた古い町並みですが、今では若者たちがたくさん集まり闊歩する様子が見られました。